

SLA通信

第21号

〒460-0024 名古屋市中区正木1-2-8
(財)シニアルネサンス財団内
TEL 052 332 7883

「親の役割」

中部SLA協会 会長 田中 芳雄

私は、どうもカラオケは苦手で、カラオケボックスに行った事がなく、一度だけ猛暑の日に間違えて、カラオケ喫茶に入ってしまう、コーヒーだけ飲んで、早々に退散したことがありました。

昨今、めずらしく演歌で90万枚を販売した話題の「孫」を聞く機会があり、聞いてみて、なるほど、これなら売れて不思議はないと、なんとなく納得しました。

私が一番心に残った歌詞の部分は、

「仕事一途で、果たせなかった親の役割、かわって孫に、今は返しているところ・・・」
こんな、見事な表現が、今の自分の心境と一致しており、爾来テープを(MDが無いので)買い、車で何度も聞いています。

考えて見ると、我々世代の人たちが、子供の成長期に、父親としての義務を果たしたかどうか？ 何人が自信を持って返答できるか、はなはだ疑問であります。

それほど当時は、完全な企業戦士として、会社に忠誠を誓い、家庭は妻にまかせっきり、当然子供の教育も満足にできずに、自分を含め多くの方は、こんな姿があたりまえと自認していたのではないだろうか。今考えると、周囲全員がそうであったから、家族の犠牲など眼中になく、家庭思いの行動でも取ろうものなら、仲間から白い目で見られるような気がしたのも事実である。

バブル崩壊により、現在、社会情勢が大きな変動期に入っており、企業経営のあり方、終身雇用の見直しで、サラリーマンが企業に対する考え方も大きく変わりつつあり、当然、家族へのコミュニケーションのあり方も修正されつつあります。

これからの時代は、会社に頼るものではなく、頼れるのは、自分しかないことを、今の若いひとたちは肌で感じており、最近の風潮として、《自分に投資する》分野が見直されています。

当然そこには、われわれ世代とは違った、熾烈な、サラリーマン同士の競争が生まれるのは必至であり、生活のバックボーンである、精神的なよりどころが重要な要素になるものと思われれます。

「孫」を聞いて、自分への反省と、これからの時代に生きねばならない、子供達や、孫たちに、エールを贈りたいと思います。

最後に、幹事として、2年間無事任務を果たせたのも、皆様のご協力あればこそと、感謝しております。……………有難うございました。……………

平成12年度通常総会のお知らせ

- 日時 平成12年4月30日(日) PM 1:00~4:00
場所 ワーピアつるまい
内容 ①平成12年度通常総会 (1:00~2:30)
②講演会 演題 「いのちを見失うとき」 (2:30~4:00)
講師 祖父江 文宏氏
養護施設「暁学園」施設長。「子どもの虐待防止ネットワーク (CAPNA) 代表。
金城大学、大垣女子短大講師。「祖父江文宏とその仲間たち」主宰。
※ 詳しい内容については、別紙通常総会案内をご覧ください。

第4回ジャパンシニアライフアドバイザー協会(名称決定)出席報告書

「従来の全国SLA連絡協議会が改称されました」

- 開催日時 平成12年1月22日(土)~23日(日)
1月22日 PM1:00~5:00 PM6:00~懇親会
1月23日 AM9:30~13:00
- 開催場所 大阪 大阪府職員共済組合施設 以和貴壮(22日)
大阪府立女性総合センター (23日)
- 出席者 財団 河合 事務局長
東北 (1) 関東 (2) 中部 (2) 中国 (2) 九州 (2)
関西 (6) ()内出席人数 会長及び副会長 他
(中部は 田中・大森 2名出席)
- 議長選出 関東 高木 香代子会長が全員の賛成により選出される。
- 平成11年度活動報告
九州・中国・関西共に 行政主催のイベントのなかに SLA 活動を組み込む努力を
しており、注目されました。 関東についてはSLAの人数も多く、新しいテーマに
対し、それぞれのプロジェクトを組み活動している。
中部発表のNTTを巻き込んだ、インターネット組織作りについても皆の関心を集め
ました。
- 議事内容
第1号議案

★SLA連絡協議会の組織及び運営

名称について決定「ジャパンシニアライフアドバイザー協会」

位置付けについて討議あるも、各協会の経て系列の上ではなく、並列的な感じの
もので、前提として、活動内容について特定され(後記)各協会が同一步調で活
動するものに絞られます。

継続した活動が前提になり、現在のように、会長が毎年変わると、従来と同じく
点で、線にならないので、各協会は検討して欲しい(財団の強い意向)との事で、
各協会持ち帰り重点検討する。(専任を設置等)

当面、このメンバーで準備委員会として、スタートし次回、12年6月に再度、
関西にて同一メンバーで開催決定する。

当面、事務局としては関東 SLA が担当し、立ち上げについて、財団 河合事務局長が事務的なおぜん立てをすべてする。

★ジャパンシニアライフアドバイザー協会の立案行事（行事予定）について

★NPO について

各 SLA は検討しているが、今一步踏み出せない状況であり、今後は、SLA として全国組織で申請も検討する必要があるが、十分に討議する必要があります。

第 2 号議案 各地協会の共通課題について

養成講座の開催について

関東以外は、関西、中国、中部ともに、2～3年募集をしていないが、これは、地域の要望と、熱意がないと、財団として、募集に踏み切れない事情がある。

第 3 号議案 「定年前後の悩み 110 番」 3 月 11 日～12 日実施決定

第 4 号議案 「シニアひとり暮らし 110 番」 9 月 30 日（土）～10 月 1 日（日）実施決定

第 5 号議案 「協会会報紙発行について」は現在会員一人あたり @20 円徴収納付しているが、金額的に今後検討する、財団としては 1/2 負担を考えている。各 SLA 協会は残を分担する。発行は準備委員会発足と同時に第 1 回 7 月の予定。

その他の件 定期的なジャパンシニアライフアドバイザー協会の会合を開催実施する。
次回は

6 月 10 日（土） PM 1:00～5:00

関東提案事項

保証人等、住居に関する全国調査の依頼があり、各地域で調査して年度末（3 月 31 日）までに関東 SLA 協会宛て報告する。

研修部会だより

研修部会 実施報告

日時 2 月 12 日（土） PM 1:00～4:30

場所 伏見ライフプラザ 情報ボランティアセンター 12F

参加者 23 名

内容 ①「退職による年金と雇用保険」 講師 3 期 杉浦 玲子氏
年金の具体例による解説・雇用保険の現状と改正点
②介護保険「住民の一番の関心事」 講師 5 期 姉川 久子氏
変化している中での介護保険の最新情報

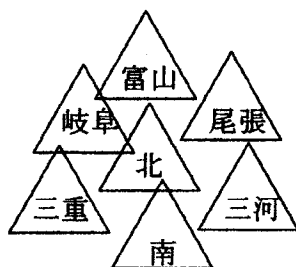
全体研修会 実施報告

日時 3 月 4 日（土） PM 1:00～4:30

場所 伏見ライフプラザ 情報ボランティアセンター 12F

参加者 14 名

内容 ①「電話相談のための年金解説」 講師 3 期 杉浦 玲子氏
電話相談のための年金具体例をポイント解説
②介護保険「介護保険の実態」 講師 3 期 塩野 高子氏
介護度の認定、サービスの内容、業者の内幕等、現場での視点による解説



地域部会だより

岐阜部会

実施報告

岐阜地方・家庭・簡易裁判所見学

日時 3月7日 13:00~16:30

参加者 7名

裁判費用・弁護士費・その他裁判についての勉強と、小額訴訟（30万円迄）の裁判の傍聴をしました。

裁判の内容は、運送会社の社員の休業及び解雇通知に関する訴訟であったが、円形テーブルを囲んでの「ラウンドテーブル法廷」というもので、裁判官を中心に双方の言い分、証拠書類の確認等が行われ最後に和解と言うことになりました。30万円以下という金額では、個人的な考えでは訴訟などしないと思っていたので、そんな裁判があることも驚きでしたが、当たり前とはいえ裁判官の冷静な態度、証拠書類の重要性、泣き寝入りしないで権利を主張する勇氣にあらためて感銘を受けました。

この見学によって、普段は縁のないものと思っていた裁判所が、ずっと身近なものになり良い勉強になりました。

5期生 尾関 恵子

尾張部会

実施報告

日時 3月8日 AM 11:00~15:30

参加者 8名

場所 ①「愛知県福祉機器展示コーナー・福祉ライブラリー」見学

展示コーナーでは福祉機器550点が展示してあり、モデルルームには住宅改造に必要な近代的機器が備えてあり、相談員による説明を受ける。

場所 ②「なごや福祉用具プラザ」

職員による「介護問題」の勉強と見学

福祉用具プラザの見学及び、保健婦の方から、4月に始まる介護保険について経験豊かな楽しい話しあいをしました。

SLA 2期生外山晴美さんのご逝去を悼む

山下可子

去る3月1日、その日は外山晴美さんが腹部大動脈のバイパス手術をされる日と伺って
いました。ご本人からは大きな手術ではないとお聞きしていましたが、それでもひとこと
激励の気持ちをお伝えしたいと思いました。朝のうちにお宅へお電話をしましたところ、
留守番電話になっていましたので、その旨のメッセージを入れました。

その日の真夜中、外山さんの奥様からお電話を頂きました。

「山下さんのメッセージを主人に伝えました。大変よろこんでございました」

「手術は無事終わられたのですね」と私が申し上げたところ、

「それが、あちらへ逝ってしまいました」とのお言葉。私は驚きと深い悲しみのあまり、
言葉を失ってしまいました。

翌2日のお通夜、3日のお葬儀と出席させていただき、SLA活動における外山さんへ
の感謝の気持ちを捧げ、ご冥福をお祈りしました。

思えば、外山さんとは中部SLA協会設立準備委員会活動以来、共にSLA活動を続け
てきました。協会創立後、5年間にわたって、『シニア生き生き教室』を身を持って実践し
て下さった外山さんは、協会の中でも、貴重な生き字引である仲間の一人でした。

また、創立以来続けてこられた電話相談では、高齢者にもっとも関心の高い年金問題を
はじめ福祉についても、日ごろからよく勉強をしておられました。毎年春に開催される「定
年前後の悩み110番」にも、毎回、率先をして参加されました。これらは、SLAボラ
ンティア活動における真の「電話相談員としてのあり方」のお手本を態度で示して下さっ
たと、私は思っています。

振り返れば、2月4日節分の日、SRクラブが主催したシニアを対象とした「生き生き
教室てくてくウォーキング」の『歴史探訪：荒子観音周辺のお寺巡りと荒子観音の豆まき
見学』に、ご一緒に参加をしました。これが外山さんにとっての最後のボランティア活動
となりました。

あの日、外山さんは地下鉄高畑駅に集合をした約30人の参加者と共に、大変お元気な
足取りでおよそ2時間の行程を歩かれました。早春の穏やかな日差しを浴びて、いつもな
がらのお洒落な服装で、楽しげに行動された様子が、今も鮮やかに甦ります。

誰もが認める温かい人柄で、常日頃から、「上下関係なし、見返り・報酬を期待せず、自
分と他者とのかわりを大切に」というボランティア精神を持ち続けてこられた外山さん、
ほんとうにありがとうございました。

悼句

ボランティアの友の笑顔やお彼岸会

春星や友を偲びて仰ぎけり

心よりご冥福をお祈りいたします

合掌

(2000. 3. 25)

外山晴美さんの思い出

今泉治子

3月2日早朝、山下可子さんのお電話で、外山晴美さんが他界をされたことを知りました。つい数日前のご本人からのお電話では、簡単な手術をされるだけとお聞きしていました。お声もお元気でしたし、なんの懸念もない様子でしたので、にわかには信じられない思いでいっぱいでした。

顧みますと、外山さんは平成6年(財)シニアルネサンス財団が中部地区ではじめて開催をしたSLA(2期生)養成講座に参加され、SLA資格を取得されました。その後、中部SLA協会設立に向けての設立準備委員会に参加。同年10月2日協会創設と共に幹事となられ、翌7年度は監査を務められました。2年の任期を終えられて後は、名古屋北地域部会の代表として、今年度まで幅広い活躍をされました。

私たちの名古屋北地域部会は、毎年秋の終わりに開催する一般市民を対象とした「生き生き教室・講演会」を軸として、全員で地域活動の推進に地道な努力を積んで来ました。その中であって、部会代表の外山さんは、福祉のエキスパートとしての力を遺憾なく発揮されましたが、決して個人プレーに走ることはなく、メンバーの和を何よりも優先され、みんなで作り上げることの大切さを示してこられました。

私はSLAになって以来、外山さんとは多くの活動を共にさせていただき、大変お世話になりました。それだけに思い出は多く、いろいろなことが胸に去来します。

昨年10月16・17日、日本福祉大学半田キャンパスで開かれたシニアネットワークーズコンファレンスに、山下さんと3人で参加したのも感慨深い思い出の一つです。私たちはそこで多くのシニアネットワークーズと出会いましたが、外山さんはその方々と情報社会に関する様々な意見交換を積極的にされていました。会場へは私の運転する車で往復をしましたが、車の中では、コンファレンスの話題に始まって、いつもながら会話が次々に弾み、片道1時間半の長い道のりが本当に短く感じられました。

また2年ほど前のことですが、外山さんが部会の運営について、山下さん、南谷さんと私の4人で、話し合いをしたいといわれました。ところが、なかなかスケジュールの調整が付きません。やむを得ず夕食後、4人が集まりやすい清水口のファミリーレストランで集まる提案をしましたところ、外山さんも賛成をしてくださいました。お互いに夜ならば時間もあり、気分も変わって話しやすい。山下さんも南谷さんも気に入って下さったので、すっかり味を占めて、その後も同じ会合を何度か持ちました。外山さんがお酒がお好きだったことをお葬儀の折りに始めて知り、晩酌のお邪魔をしてしまったのではと、今更ながら申し訳ない気がしました。

毎年中部SLA協会の総会議案書に載せる名古屋北地域部会の活動は、外山さんが報告をして下さっていましたが、今年は急遽加藤銜美さんにまとめていただきました。その折、外山さんの地域部会の記録ノートをお様をお願いして拝借しました。部会に関するいろいろなメモが克明に書き込まれた外山さんのノートを拝見しながら、「ああ、名古屋北地域部会を愛してくださっていたのだなあ」としみじみと感じ、胸が熱くなりました。私たちも共に歩み続けることで、外山さんの功績に報いたいと思います。

(2000.3.25)